東京東村山ロータリークラブ　国際ロータリー第2580地区

週報

国際ロータリー・テーマ

こころの中を見つめよう
博愛を広げるために

こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

Vol.44　第2205回例会　2012.3.1

今年度会長テーマ　和の心　自然に学びて未来を創ろう

■司会：
石山例会運営委員長

■点鐘：小町会長

■合唱：ロータリーソング
「奉仕の理想」

◆ソングリーダー：
野村(裕)会員

■お客様紹介：
神﨑パスト会長

◆ビジター：
東京西南ＲＣ
山下　那康　様

■会長報告　小町会長

3週間ぶりの例会場です。この間、地区大会に続き、我クラブの創立45周年記念式典では雨の降る中、会員皆様には早くから準備に参加して頂きありがとうございました。お蔭様で開会時には陽光眩しく、来賓、来訪をお迎えできました。式典、パネルディスカッションそして掬水亭に会場を移しての懇親会、おおいに盛り上がり、宜野湾ロータリークラブとの懇親会も楽しく過ごさせて頂きました。参加者には多くのお礼の御言葉を頂き、感謝しております。
話は変わりますが、ＮＨＫゴールデンタイムの番組、水曜夜8時、ためしてガッテンを見てる方、多いと思います。食や健康など日常の疑問に科学と実験でわかりやすく回答する内容で、この4月で18年目だそうです。多くの番組は複数のディレクターが関わるところ、一人のディレクターが6カ月かけて一本作る。専門家では伝わり難いところを、より解りやすく説明するのに落語家をあてた。スタッフの狙いは少子高齢化に向かって人口が逆ピラミットになり、病人が多くなると社会も困る。そこで、健康で長生きしてもらうには、お金をかけず、人に頼らず、自分の力で目標達成するワザを教え、老若男女が見られる番組作りが狙いのようです。

■例会日／毎週木曜日　12:30～13:30
■例会場／八坂神社　社務所
〒189-0013　東京都東村山市栄町3-35-1

■クラブ管理委員会／赤木　盛一
■事務所／〒189-0013
東京都東村山市栄町3-5-1ハイツむさしの101
TEL　042-393-7500　FAX　042-395-1166

■幹事報告　　野村(高)幹事

■東京青梅ＲＣ：
2011～12年度会長・幹事会ゴルフコンペ中止のお知らせ
2012年4月13日(金)ゴルフコンペ→中止

■ガバナーエレクト事務所：
・2012～13年度地区委員就任依頼について
地区オン・ツー・リスボン委員会委員長→戸澤会員

・次年度地区委員の人選依頼について
地区オン・ツー・リスボン委員会委員の人選依頼

・ＰＥＴＳ(クラブ会長エレクト研修セミナー)並びに地区チーム研修セミナーの案内の受理
2012年3月21日(水)　12:30～
於　ホテルグランドパレス3Ｆ

■国際ロータリー日本事務局：
3月のロータリーレート　1ドル＝78円

■ガバナー事務所：
地区大会のお礼状の受理

■ロータリー財団委員会、ポリオプラス委員会：
インドＮＩＤ(全国一斉ポリオワクチン投与)活動日程変更のお知らせについて
実施日　2012年4月1日→4月15日へ変更

■新地区補助金奨学生申請者：
広沢 智紀(ひろさわ ともき)
1991年11月9日生(20才)
埼玉県狭山市在住、新宿にて派遣社員
2010年県立浦和高校卒業
イギリス ケンブリッジ大学入学予定

■回覧：バギオだより

■唱和

第9章　常に相手の身になって共存共栄を図る事は職業奉仕だ

■出席報告　　島田例会運営委員

在籍会員数	出　席	免　除	欠　席	出席率
33	21	0	7	77.42

■前々回メークアップ修正後前々会欠席：5名
■前々回出席率メークアップ修正後：83.33％
■前々会メークアップ者：
飯田会員：京都西ＲＣ
目時会員：分区委員会
漆原会員：地区委員会
山宮会員：立川ＲＣ

■ニコニコＢＯＸ　相羽例会運営副委員長

■皆出席：
神﨑会員(19回目)

■会員誕生祝月：
隅屋会員

■令夫人誕生祝月：
戸澤会員、相羽会員
石山会員

■ご結婚祝月：
當麻会員、荻野会員
小町会員

◆小町会長：地区大会、創立45周年記念式典には多くの会員そして、ご夫人には大変お世話になり成功裏に終わりありがとうございました。

◆野澤会員：過日の創立45周年記念式典には皆様方には大変ご苦労をおかけしました。お陰様で無事終了することが出来、感謝いたします。また次なる50周年に向けて頑張りましょう。

◆野村幹事：45周年記念式典大変ご苦労様でした。皆様の式典終了までのご苦労に感謝します。

◆宜野湾ＲＣ酒井会員、幸子夫人：
東京東村山ＲＣの皆様創立45周年誠におめでとうございます。長年にわたる心温

かいご友情に感謝申し上げますと共に貴クラブの益々の発展を祈念申し上げます。

◆金子会員：萩山町にお住まいの山下さん、今日のメークアップありがとうございます。野澤45周年実行委員長さんはじめ関係者の皆さん、菱沼さん、大変お疲れ様でした。大成功で良かったですね。

◆戸澤会員：地区オン・ツー・リスボン委員会の委員長を受けることになりました。山本会員さんに副委員長をお願いしました。

◆漆原会員：先日の45周年記念式典では大変お世話になりました。ありがとうございます。写真ありがとうございます。

◆當麻会員、町田会員、樺澤会員：
宜野湾ロータリークラブの皆様との友好親善にご協力ありがとうございました。

◆五十嵐会員、當麻会員、赤木会員、野村会員
島田会員、目時会員、荻野会員、隅屋会員
田中会員、相羽会員：
写真ありがとうございました。

本日のニコニコ合計：　78,000円
累　　計　：　897,554円

■委員長報告

■當麻職業奉仕委員長

皆さんこんにちは。来週の8日の職場見学のお知らせを再度致します。来週は少し変則的でありまして、例会が12時30分からなのですが、12時に点鐘して、会務報告を受けて、12時30分にここから東京交通のマイクロバスでミズノの東京本社の方に出掛けたいと思います。内容は皆さんに今回覧しておりますが、ミズノの企業理念と野球用具の歴史という事で、まず、ミズノの東京本社の8階にピッコリルームという所がございます。そこで約40分卓話をお聞きいただきます。その後神田のミズノのショップを見学して帰途に着きたいと思います。そして最後にこちらに17時30分頃に着きましたら久米川の駅前の小千谷さんで懇親会をしたいと思いますので、出欠席の方を回していますので宜しくお願い致します。これは水野ガバナーに公式訪問の時にお願いしまして全部手配して頂きました。もう水野ガバナーは会長を降りられているということで出席は出来ませんけれども、向こうの人事、総務課の方が全面手配して下さっているので宜しくお願い致します。尚、出席はなるべく多くして下さいます様お願いします。最後に追加ですが、お弁当は車内で用意してありますので例会ではお弁当は食べません。以上です。有難うございました。

■戸澤オン・ツー・
バンコク国際奉仕委員長

こんにちは。いよいよ5月5日のオンツーバンコクが段々と近づいて参りましたけれども、一応最終的に現在決まっておりますのは、相羽さんと飯田さんの奥さんにも参加して頂くことになりまして、トータルで27名参加することになりました。まだ追加は間に合いますので宜しくお願いします。本日13時30分からＪＴＢの説明会がありますので参加される方は少し残って頂きたいと思います。宜しくお願いします。

■卓話（45周年を振り返って）

■小町会長

9月に実行委員会を立ち上げさせて頂き、野澤委員長、當麻、戸澤、漆原副委員長のもと、組織案、開催場所、講師選定、役割分担表等の内容を決めていきました。会場、記念講演については時期等の問題で変更を余儀なくされましたが、簡素にして充実を念頭に東村山の地で、限られた人数の中、参加くださる皆様に喜んでもらえる企画をしたいと、熱心な議論をかわし進めてまいりました。二部のパネルディスカッションでは青少年交換留学を体験された、3名のパネラーと宮本コーディネーターが世界を見てきて、いかに人生に役に立っているかを、全中学校長に出席願い、生徒に伝えてもらう趣旨を教育長、田所総括校長にご理解、配慮を頂き実現でき嬉しく思います。ハンガリー、インド、オランダ、メキシコと国情の違いこそあれ、活き活きと語る表情に感動を覚えました。会場を移した懇親会では多摩湖畔を望む掬水亭で鏡開きで始まり、大橋美加さんのジャズ演奏もあり、おおいに盛り上がり、樺澤・町田友好委員のご尽力で大勢で参加頂いた、宜野湾ロータリークラブさんにも花を添えてもらい、心地よい酒に酔いしれ、ロータリアンで良かったと思う一日でした。
又、懇親会お開きには、6ページの式典号外新聞を皆さんに配布でき、これもまた驚きの感想でした。
東村山ロータリアンとご婦人方の結束のお陰で成功裏に終了しました。来客の皆さんより沢山のお礼状が届いています。これからも、これまで築きあげた諸先輩に感謝し、新たなる眼を開いて幅広い奉仕活動に邁進していこうではありませんか。ありがとうございました。

■野澤実行委員長

皆さんこんにちは。過日の創立45周年記念式典には改めて感謝を申し上げます。本当に有難う御座いました。改めてまた15日ですか、打ち上げをするそうですのでその時には皆でおいしいお酒を飲み交わしたいと思いますので楽しみにしております。

今日は私の尊敬する山下大先輩においで頂きまして大変嬉しく思います。皆さんの中で覚えている方いらっしゃいますか、10年ほど前に、当ロータリークラブの合同例会の時に卓話をお願いして講師としておいで頂きまして、40～50分ほど素晴らしいお話し頂きました。青年ロータリークラブではもう全ての役は終わりまして、現在は悠々自適で執筆活動に専念していらっしゃるようです。当時私が頂いた本で「差別の好きなアメリカ人」というとても楽しい本を読ませて頂きました。先程もお話に出ましたが、山下先輩は萩山町にお住まいで早稲田出身でして、早稲田の先輩達が作る稲門会の、東村山支部の会長の役職を何年も務めた方でございます。私の仲間の中でも知っている方も結構いらっしゃいます。そういうことで、ようこそいらっしゃいました。

実は今回の45周年で私は改めましてロータリーの奉仕とは、ボランティアとは、ということをキーワードに振り返って考えさせて頂きました。今回の私共のこの記念事業は、広い意味では奉仕、ボランティアに入るかも分かりませんが、4つの寄付行為を記念事業にさせて頂きました。狭くは東村山の行政、中学校、つまりはこの地域から、広くはロータリー財団へという、地域から国際社会への奉仕ということ(勿論その中には東日本大震災の被災地への寄付も若干させて頂きました。)、そういう広い意味での地域から国際的な奉仕活動が、今回の記念事業で凝縮されたように思いました。私はこのロータリーの奉仕もまさにその通りで、私共東村山ロータリークラブというものがやはりこの東村山という田舎の地域に根付いたロータリーであろうと思います。山下先輩にいらっしゃっておりますけれども、私、何回か都内の方のロータリークラブにお邪魔した時に、極めて差が表れたと感じましたのは、都心のロータリークラブには地域がないということを感じました。活動は広い意味で奉仕活動をしていますけれども、私共の様に、「土着」と言いますか、そこに根付いた奉仕活動のやりようが無いということをおっしゃっていた先輩もおりました。そういう意味では、都心のクラブとは違った、我々のローカルなロータリーの特色ではないかと思います。しかしながら、ロータリーの特色としては、財団へもお手伝い、寄付はさせて頂いていますから、そういう意味では地域から国際的な、広い意味での奉仕活動を展開していると言っても宜しいのではないのでしょうか。

今回、記念講演に代えましてパネルディスカッションを行いましたけれども、これには青少年交換留学生をお呼びしました。この中に実は私が委員長の時に選んだ2人の学生がいたのです。インドへ派遣した荒井勇樹、それからオランダへ派遣した荒木瑠梨子です。実はこのお話にもあったと思うのですが、インドへ派遣することを決めてから2年目だったのですけれども、荒井勇樹は何と空港に着いたら8時間タクシーで這い回されてようやく着いたということだったのです。私達は向こうに着くと必ず着いたという返事を待っているわけですが、彼だけがなかなか連絡が取れなくて、待っていられないからもう帰ろうということになったのですが、翌日、やっと連絡が来まして、何とか無事に着いたということで、えらい心配をしたということがありました。荒木瑠梨子は、初めてオランダへ派遣したのですが、実はこの子もアクシデントがありまして、当初別のヨーロッパの国へ行く予定だったのですが、実はその国の子がこちらに来られなくなってしまい、急遽受け入れが出来なくなってしまったのです。こういうことがあったので、初めての国を開拓しようということでいくつかの候補が挙がったのですが、じゃあオランダにターゲットを当てようということで、外務省から色々奔走して頂いて、ビザも下りる見通しがついたので、急遽オランダに派遣したのがこの荒木瑠梨子でした。当時私は話したことがあったと思いますが、こんなことを話したことがありました。内定が決まりますと、オリエンテーションを1年やりまして、そして派遣をする訳ですけれども、また帰ってきてからもお付き合いをします。ある時その帰ってきた学生が私と会った時に、「野澤さん、ロータリーって何年やるのですか？」と尋ねました。と言いますのは、選考してから送り出して、1年留学して帰ってきてもまだ在籍しているので、もうとっくに私がロータリーからいなくなったと思っていたらしいのです。その質問を受けた時に「ロータリーには定年が無いから、もしかしたら一生かも。」と答えました。するとその学生は「どうしてそんなにやるのですか。」ととても興味を持って色々と聞いてきました。そして私も段々悦に入って、「ロータリー運動は親睦と奉仕といって活動に終わりがありません。そしてロータリーは見返りを求めない奉仕団体なのです。色々な活動は皆手段であって、目的は人づくりなのです。皆さんにも留学という機会を、そして費用を出してあげるけれど、こうやって帰ってきたら、あれをしなさい、これをしなさいといった制約は一切しません。小さな国際親善大使という種は蒔きますが、それをどのように育て、刈り取るかはあなた達次第なのです。」そんな話をしました。「ロータリーは奉仕の理想を追い続けるのが夢です。皆さんは帰ってきて大学に行って、後輩のお手伝いをローテックスという形でやりますけれども、卒業したらもう自分の好きな企業に勤めて、そして自分の好きな人生を送れば良いのです。私たちはその種を蒔いただけです。」そういうお話をしましたら、その子は目を丸くして興味津々な様子で、「ロータリーって凄いですね。」と言っていたことがとても忘れられませんでした。

今回実は先程会長からお話がありました様に、行きがかり上、7人の校長先生をお呼びしまして、当初は吹奏楽をお願いする予定でしたが、その予定が無くなってしまいまして、折角の機会ですから、東村山ではいのちの教育推進クラブに全市を挙げて取り組んでいる、そういうことに共鳴して私たちも「青少年に夢と希望を」ということで、今回のパネルディスカッションを計画した訳でございます。懇親会の席に実は7人の校長先生も参加して頂きまして、私は外部の方の来賓の方の所にお酌に回らせて頂きました。その時にたまたま第4中学校の校長先生がいらっしゃいまして、そこへ行ったところ、島田先輩が隣に座ってらっしゃって、「野澤君良い所に来た。ロータリーについてちょっと話してあげて下さい。」とおっしゃるので、話す機会を頂きまして、その4中の田所校長先生に青少年交換の仕組みとロータリーの奉仕活動について、今のような話を少し織り交ぜながらしてみました。すると目から鱗の様な顔をして他の校長先生達も身を乗り出して聞いて下さい

ました。と言いますのは、学者さんは社会的無知なんて言いますけれども、あの先生方は教育以外の他の社会はあんまり知らない方が多いです。ましてやロータリークラブなんていうものはもしかしたら駅前ロータリーのことかもしれない、そうでは無いにしても、奉仕団体だということくらいは分かっていても何をやっているかは全く分からない。私は色々な所に行くと時々そんな声を聞きます。ロータリーは宣伝下手ですから、それでも良いのかなと思ってはおりますが、まさにそんなお話をしたら目から鱗のような気持ちで私の話を聞いて下さったということです。

そんな時に、今回の企画が良かったと私自身も自負している所ですけれども、これからは国際社会の到来であるとか、グローバル化社会の実現といった言葉はもう久しいですけれども、まだまだ日本は国際社会に出ていくには色々な意味で遅れていると言われています。これからの中学生達は否応にもそういった社会に飛び込んで行って、世界の人たちに負けない生活を送る色々な場面が多いはずです。そういう時に少しでも今回の企画が役に立つのではないかという風に思っております。

話は戻りまして、地域や国際的な奉仕活動についてですけれども、私はこの「奉仕」ということには、小さい、大きい、量や長さの問題はないと思います。私の地域を例にとってお話しますと、700m程の小さな緑道がありまして、地域の自治会がその緑道に植木を植え込んで管理をしていて、市から若干の委託金を頂いて請け負っているのですが、私はそれ以前からその緑道を毎日通勤する際に歩いていまして、鞄の脇にビニール袋とハサミを持って煙草の吸殻や犬の糞、ゴミを集めながら歩いて職場に行っているのです。最初の頃は「毎日毎日よくも捨ててくれるよな」「マナーも何もあったものじゃない」そんなカリカリした思いでそれをやっていたのですが、段々とやっていくうちに、少しレベルが上がりまして、「これは子供達が通る通学路だからなあ」とか、「毎日犬を散歩している人達がいて、昨日は糞があったのに今日は無いからきっと誰かが拾ってくれたのだろうな」こういう意識に変わっていきます。最初の頃は「全く面白くないな」だとか、「何でこんな通学路に」とか思っていたのが、今度は「子供達の為に」或いは「散歩する人が気持ちよく歩く為に」こういう意識に変わっていきます。これではまだまだレベルが低いです。次の段階になると今度は自己満足に変わっていきます。とても自分が気持ち良くなりますよね。すると先ほど言った様なことは全部忘れて、ただそれをひたすらやることで自分が気持ち良い、という自己満足の境地に入っていきます。しかしこんなことではまだ意識が低いという事が分かりました。その次に来るのは、自己満足を超越して自己を高めることになっていきます。これは自分自身の精神論ですけれども、それをすることによって自分が高まっていくのです。これは先ほど言った、小さな自治会の活動のゴミ拾いから国際的な活動のボランティア、といった意味も含めまして、決して量や大きさや質の違いではなく、ボランティアの精神というのはそういう所に必ず到達するのだなという事を実感しました。

ロータリーの奉仕活動も先ほど申し上げましたように、私はもしかしたら、この「自分を高める」ということに必ず到達するのではないかと思います。更に、では何故終わりのないマラソンを、奉仕の理想を追求し続けてやるのかということは、自分の心ですからこれで良いというゴールは無いのです。奉仕活動や我々の奉仕の理想を求める上で、これで良いという到達点は無く、決してゴールテープが貼られていません。だからロータリーは夢を追い続けるのではないでしょうか。ロータリーの奉仕活動も永遠に続いていきます。それは自分の心を永遠に高めていくことに繋がっていく様な気が致しました。

時間が来ましたが、こういった事を感じましたので少しお話をさせて頂きました。どうも有難うございました。

■点鐘：小町会長

■出席報告

第2204回例会
（創立45周年記念式典）

在籍会員数	出　席	免　除	欠　席	出席率
33	32	0	0	100.0

■前々回メークアップ修正後前々会欠席：3名
■前々回出席率メークアップ修正後：90.32%
■前々会メークアップ者：
飯田会員：京都西ＲＣ
野村(高)会員：バギオ委員会
嶋田会員：東京東大和ＲＣ